

医療最前線

▶112

五省会西能病院(富山市)① 病院長 増田 明さん (64)

五省会西能病院は1962(昭和37)年、北陸初の整形外科診療所として開業した。増田明病院長は、医師の仕事に大切なことは「不易流行」という言葉にあると考える。

松尾芭蕉が俳諧の理念を表した言葉で、「時代を反映して変化していくことが俳諧の不易の本質だ」という意味である。

医療を取り巻く環境は大きく変化している。高齢化によって医療制度改革が進められ、病院での治療に加え、退院後の長期的なケアが重要な要素になった。時代に応じて、医師に求められる仕事は変わ



病院の理念について話す増田さん
＝富山市の西能病院

ますだ・あきら 群馬県伊勢崎市出身。新潟大医学部を卒業後、富大附属病院などに勤務し、2002年から西能病院に勤務。09年7月に病院長に就任。

「信頼と奉仕」を胸に

つていくが、増田病院長は「状況に柔軟に対応することが、五省会の理念である『信頼と奉仕』につながっていく」と話す。

時代に即した取り組みは職員の意識だけではなく、病院の設備にも反映されている。2012年に移転した現在の病院は、患者のリハビリに適した建物にした。

病棟の廊下は回廊になって

おり、床には1周の距離が書かれて

いる。「病室を出ると、すぐに歩行のリハビリができるようになっていきます。患者さんの意欲を高める工夫の一つです」

このほかにも、各病棟にリハビリ施設を備え、屋外には患者が歩きやすいように、病院の建物を取り囲むようにレングの歩道を整備するなど、患者がリハビリに取り組みやすい環境を整えた。

専門問わず協力を

整形外科が中心の病院にあつて、麻酔科医である増田病院長は、「専門を問わず、みんなが協力し合つて患者を支える体制をつくっていく」と語る。

常勤の麻酔科医は3人おり、同規模の病院では多い。「けがはいつ起きるか分かりません。手術が必要なきときは、少しでも早く対応できるようにするためです」と説明し、

患者の苦痛を早く取り除くことも「信頼と奉仕」の一つである。

西能病院での1年間の手術件数は、増田病院長が勤務しはじめた2002年以降、増加傾向にあり、2017年は過去最多の1718件に達した。「多くの人が西能病院を頼りにしてくれている。気を引き締めていく」と語る言葉には医師の誇りが込められていた。



富山新聞

2018年(平成30年)5月2日(水曜日) 掲載